

## 御 礼 の 言 葉

令和七年度 松戸市戦没者追悼式が、戦没者遺族ならびにご来賓の皆様のご臨席を賜り、厳粛に挙行されましたことに、遺族を代表して、心より御礼を申し上げます。

終戦から八十年という節目を迎えました。戦後、私たちは移りゆく時代の中で幾多の困難を乗り越え、一人ひとりの知恵とたゆまぬ努力によって、平和で豊かな日本を築き上げてまいりました。

今日の発展と繁栄、そして将来への希望は、先の戦争で命を落とされた方々の犠牲の上に成り立っていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

祖国の未来を案じ、家族の<sup>あんたい</sup>安泰を信じながら戦場に<sup>たお</sup>斃れた方々、遠い<sup>いきょう</sup>異郷の地で病や飢えに苦しみ、志半ばで命を落とされた御霊のご無念を思うと、遺族として今なお深い悲しみと痛みを禁じ得ません。

私たち遺族は、命の儚さを身をもって知る者として、戦争の悲惨さや愚かさ、そして平和の尊さを次の世代に語り継いでいく責務を担っております。命がいかに尊いものであるかを伝え、平和な時代が永遠に続くよう、次代を担う人々と共に歩んでいく覚悟でございます。

本日は、「松戸市平和大使」の皆さんから、平和への思いを語っていただきました。将来を担う中学生の皆さんにご参列いただいたことは、

私たちにとって大きな希望であり、心強いことでございます。平和大使の皆さんには、これまでの学びや今日感じた思いを、ご家族や友人に伝えていただき、私たちの平和への願いを受け継いでいただきたいと願っております。

結びに、改めて、先の大戦で尊い命を失われたすべての御霊に対し、衷心より哀悼の誠を捧げ、戦没者の御霊の安寧<sup>あんねい</sup>と、ご参列の皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、お礼の言葉といたします。

令和七年九月二十七日

松戸市遺族会 会長

石井 猛